ほぼ週刊コラム　Partnership論　その１７１

**シリーズ：『米国Partnership税制勉強会』の振り返りと準備**

**第十九回勉強会（**[**年表**](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Column%20hobo-shuukan/2014/20141003%20W113%20economic%20substance%20without%20profit/shiryou/evolution%20history%20of%20US%20partnership%20taxation%20rev8.ppt)**項目12：the economic substance doctrineのcodify）の準備（１）：**

**民主主義や主権者を論じるときのpeopleには、なぜ必ずtheがつくのか？**

20160108　rev.1　齋藤旬

**Free willとは？**正月休みに、時代小説文庫の白眉、[佐伯泰英『居眠り磐音(いわね) 江戸双紙 50 竹屋ノ渡(わたし)』](http://www.amazon.co.jp/%E7%AB%B9%E5%B1%8B%E3%83%8E%E6%B8%A1-%E5%B1%85%E7%9C%A0%E3%82%8A%E7%A3%90%E9%9F%B3%E6%B1%9F%E6%88%B8%E5%8F%8C%E7%B4%99-50-%E5%8F%8C%E8%91%89%E6%96%87%E5%BA%AB-%E4%BD%90%E4%BC%AF-%E6%B3%B0%E8%8B%B1/dp/4575667587/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1452232642&sr=8-1&keywords=%E5%B1%85%E7%9C%A0%E3%82%8A%E7%A3%90%E9%9F%B3%28%E3%81%84%E3%82%8F%E3%81%AD%29+%E6%B1%9F%E6%88%B8%E5%8F%8C%E7%B4%99+50+%E7%AB%B9%E5%B1%8B%E3%83%8E%E6%B8%A1%28%E3%82%8F%E3%81%9F%E3%81%97%29)を読んでいてハッとした。徳川第十一代将軍の家斉と主人公の坂崎磐音との会話部分（258頁）：

徳川家斉：「坂崎磐音、運命には誰しも逆らえぬものか」

坂崎磐音：「いえ、人の運命はその者の修行や考え、努力によって変ずることもございましょう。われら剣術家も己の才なきことを嘆きつつも、修行することで変わりうるかと存じます」

･･･これを読んで得心した。そうか、坂崎磐音も、1524年に『自由意思論』を著したエラスムスや1534年設立のイエズス会の会士達と同じ、free will論者だと。即ち、予定説 --- 最終的に誰が救済されるかは天地創造前に決定されているとする考え方 --- を始めたカルヴァンや1525年に『奴隷意思論』を著したルターとは異なる意見を坂崎磐音は持つのだと得心した。

小説の中に架空に存在する人物に共感しても、「だからどうよ」の話だが、今年の正月の雲一つない青空のように晴れ晴れとした気分に私はなった。

**さて、明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願いいたします**。今日は年明け最初だし、小咄をもう一つだけしよう。それはタイトルの「民主主義や主権者を論じるときのthe peopleのtheは何を意味するのか」、皆で考えてみようというものだ。

そもそもpersonの複数形であるpeople（人々）にはtheをつける必要はない。となるとここでのpeopleは「人民、民族、或るnationなどを構成する人々」といった意味で使われていることになる。

そして、民主主義や主権者を論じるときのpeopleには、必ずtheがつく。例えば、前々回[コラム１６９](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Column%20hobo-shuukan/2015/20151218%20W169%20%20sovereignty/20151218%20W169%20%20sovereignty%20rev1.docx)『**sovereign（主権者）の変遷：**[**The Pope, the Kings and the People**](http://www.amazon.com/gp/product/B00A7JXOY8?psc=1&redirect=true&ref_=oh_aui_detailpage_o00_s00)』、リンカーンの有名な「of the people, by the people, and for the people」、そして歴史学者エドムンド・モーガン（1916-2013）の主著『[Inventing the People: The Rise of Popular Sovereignty in England and America](http://www.amazon.com/Inventing-People-Popular-Sovereignty-England/dp/0393306232/ref=sr_1_1?s=books&ie=UTF8&qid=1452231500&sr=1-1&keywords=Inventing+the+People%3A+The+Rise+of+Popular+Sovereignty+in+England+and+America)』[[1]](#footnote-1)など、必ずpeopleの前にtheがつく。

こういう時のtheには要注意だ。例えば、equity as between the partnersのtheは「当該partner達の間だけに成り立つ衡平」という様にequityを限定しているし、『[The Poser of Religion in The Public Sphere](http://www.amazon.com/Power-Religion-Public-Sphere-Columbia/dp/0231156464/ref=sr_1_sc_1?s=books&ie=UTF8&qid=1452232337&sr=1-1-spell&keywords=The+Poser+of+Religion+in+The+Public+Sphere)』や『[The Structural Transformation of the Public Sphere](http://www.amazon.com/Structural-Transformation-Public-Sphere-Contemporary/dp/0262581086/ref=sr_1_1?s=books&ie=UTF8&qid=1452231975&sr=1-1&keywords=structural+transformation+of+the+public+sphere)』のthe publicは、theのつかないpublicとは異なる意味を持つからだ。（だからthe public sphereの「公共圏」という和訳は適当ではない。）

なにか特定のpeopleだけに民主主義や主権が許される、という意味をthe peopleのtheは持っている。

**皆さんじっくりと考えて頂きたいが、私の答えは**：「それぞれが、moral responsibility, a greater sense of responsibility for the common good, consciousness, faith, dignity, or rightsをもつ人々」あるいは「righteousnessおよびsinを判ずる力を持った人々」というもの。そういうnorm（規範）を持つpeopleだけが民主主義や主権を許される。

各自、各自なりの言葉で、考えて頂きたい。そして、我々日本人は果たしてそれを持っているのか、考えて頂きたい。民主主義や主権を持てるのか考えて頂きたい。

今週は以上。来週も請うご期待。

1. 訳本は無い。和訳すれば『the peopleの発明：米英におけるpopular sovereigntyの勃興』。 [↑](#footnote-ref-1)